

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	理学療法概論 I			時 間 数	60
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1	単 位 数	2
担当講師	小川哲史	取得資格	認定理学療法士		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	28
授業内容	リハビリテーション専門職の中でも理学療法の意義を学ぶため基本的な用語や機器に触れ学ぶ。				
到達目標	理学療法とは何かを理解し、理学療法士となるための基本的な姿勢、実技手技、職域、職能など専門職としての役割等を学ぶ。				

授業計画

No	授 業 内 容
1	宿泊研修にて医療人、理学療法士の適正について学ぶ(16 時間)
2	理学療法の歴史(2 時間)
3	理学療法士の身分、職域(2 時間)
4	身体機能障害について(2 時間)
5	理学療法評価とは(4 時間)
6	ICHD、ICF について(4 時間)
7	疾患別理学療法の紹介(中枢疾患)(4 時間)
8	疾患別理学療法の紹介(運動器疾患)(4 時間)
9	疾患別理学療法の紹介(内部障害疾患)(4 時間)
10	疾患別理学療法の紹介(小児疾患)(4 時間)
11	疾患別理学療法の紹介(特定疾患)(4 時間)
12	理学療法の実際(4 時間)
13	世界の理学療法(2 時間)
14	理学療法と政策(2 時間)
15	基本的理学療法実技(2 時間)

テキスト 参考書等	理学療法概論テキスト(南江堂)
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	テスト

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	理学療法概論Ⅱ			時 間 数	60
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1	単 位 数	2
担当講師	小川哲史	取得資格	理学療法士		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	28
授業内容	理学療法における運動療法の紹介。 職域と職能について 医療保険制度等を知る。				
到達目標	理学療法士の身分や現在の立場、社会の中での活動を知る。				

授業計画

No	授 業 内 容
1	理学療法機器(4時間)
2	理学療法機器の変遷(4時間)
3	認定・専門理学療法士(4時間)
4	理学療法士協会について(4時間)
5	理学療法治療戦略(4時間)
6	診療録(4時間)
7	訪問リハビリテーション(4時間)
8	通所リハビリテーション(4時間)
9	医療保険(4時間)
10	介護保険(4時間)
11	身体障害者手帳・申請(4時間)
12	理学療法の実際(4時間)
13	研究(4時間)
14	政治と理学療法(4時間)
15	PNF 実技(4時間)

テキスト 参考書等	理学療法概論テキスト(南江堂)
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	テスト

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	理学療法評価概論			時 間 数	60
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1	単 位 数	2
担当講師	柏木俊彦	取得資格	理学療法士		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	22
授業内容	① テキストをもとに、実際に学生が評価を実践し知識・技術を学び身に付ける。 ② 理学療法評価を行う上で必要な心構え・態度を学ぶ				
到達目標	評価の一連の流れを理解しそれらを信頼性のある技術レベルで実施できることが必要不可欠である。				

授業計画

No	授 業 内 容	
1	評価の意義・目的	4 時間
2	トップダウン・ボトムアップについて	4 時間
3	患者の一般的情報・診断情報・診療記録について	4 時間
4	検査測定機器・評価環境・評価上の留意点	4 時間
5	形態測定・四肢周径の意義・目的 注意事項	4 時間
6	形態測定（実技）	6 時間
7	四肢周径（実技）	6 時間
8	関節可動域測定意義・目的（上肢・下肢・手関節・手指・実技）	20 時間
9	痛みの評価・手順（VAS・10段階ペインスケール・表情評価スケール）	4 時間
10	まとめ	4 時間
11		
12		
13		
14		
15		

テキスト 参考書等	理学療法評価学 金原出版
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	実技試験 筆記試験 口述試験

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	検査測定・画像			時 間 数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	本田隆広	取得資格	理学療法士		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	20年
授業内容	①理学療法評価の構成要素を知る ②理学療法評価項目を知る ③理学療法評価の流れを知る				
到達目標	関節可動域測定の意味を理解と目的を理解し、体幹・下肢・足関節・趾指の測定がしっかりできる。また徒手筋力検査の目的・判定基準・基本的手技・手順を理解する主に、頭部・頸部・体幹・上肢の基本的な技術レベルで実施することができる。				

授業計画

No	授 業 内 容
1	関節可動域測定 実技（股関節・膝関節） 4 時間
2	関節可動域測定 実技（足関節・趾指） 4 時間
3	関節可動域測定 実技（頸部・体幹） 4 時間
4	徒手筋力検査法実技（頸部・頭部） 4 時間
5	徒手筋力検査法実技（頭部・頭部・体幹） 4 時間
6	徒手筋力検査法実技（肩甲帯・肩関節） 4 時間
7	徒手筋力検査法実技（肘関節・手関節・手指） 4 時間
8	画像のみかた（X線・CT像・MRI） 2 時間
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
テキスト 参考書等	理学療法評価学・新・徒手筋力検査法 金原出版・共同医書出版社 松澤 正 ・ 津山直一
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験 実技試験 口述試験

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	理学療法中枢評価			時 間 数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	本田隆広	取得資格	理学療法士		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	20年
授業内容	理学療法評価項目「徒手筋力検査法」に必要な知識と技能を習得する。 ①評価の目的・行う時期・検査方法・注意事項を説明できる ②リスク管理を行いながら、検査を実際行うことが出来る(触診含む)				
到達目標	徒手筋力検査の下肢(股関節・膝関節・足関節・足部)の基本的な技術レベルが実施できる。また疾患に即した評価項目が列挙でき、その評価項目を正確に実施でき記録できるようになる、				

授業計画

No	授 業 内 容				
1	徒手筋力検査法(股関節・膝関節)				6 時間
2	徒手筋力検査法(足関節・足部)				6 時間
3	徒手筋力検査法(顔面)				2 時間
4	徒手筋力検査法(顔面)				4 時間
5	疾患に即した評価項目の実施(整形疾患・中枢疾患)				10 時間
6	まとめ				2 時間
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
テキスト 参考書等		新・徒手筋力検査法 共同医書出版社 津山直一			
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点		筆記試験 実技試験 口述試験			

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	理学療法運動器評価			時 間 数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2 年	単 位 数	1
担当講師	本田隆広	取得資格	理学療法士		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	20 年
授業内容	①整形外科領域の主要疾患の病態を理解する。 ②各種検査項目の内容を把握し、所見の意味が説明できる。 ③検査・測定と評価の違いが認識できる。				
到達目標	①股関節、膝関節、足関節、脊柱、肩関節の解剖・運動学が理解できる。 ②変形性関節症と、その他の病態との違いが認識できる。 ③運動連鎖という用語に興味を持ち、全身への影響を意識づける。				

授業計画

No	授 業 内 容
1	高齢者の転倒骨折疾患の病態生理(画像診断を含む)
2	高齢者の転倒骨折疾患の評価の流れ
3	変形性関節症の病態生理(画像診断を含む)
4	変形性関節症の評価の流れ
5	脊柱(主に頸部、腰部)の整形疾患の病態生理(画像診断を含む)
6	脊柱(主に頸部、腰部)の整形疾患の評価の流れ
7	肩関節疾患(主に肩関節周囲炎、腱板損傷)の病態生理(画像診断を含む)
8	肩関節疾患(主に肩関節周囲炎、腱板損傷)の評価の流れ
9	スポーツ外傷の受傷機転と検査・測定
10	各種靱帯損傷の機能テスト
11	骨盤・股関節機能がもたらす全身への影響
12	座位、立位姿勢の評価
13	内科、血液検査の主要項目
14	立ち上がり動作、立ち坐り動作の評価
15	離床動作の動作ポイントとリスク管理

テキスト 参考書等	病気がみえる vol.11 運動器・整形外科、メディック・メディア プリント配布
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	定期試験 小テスト

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	運動療法学 I			時 間 数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	柏木俊彦	取得資格	理学療法士		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	20
授業内容	①運動器系の生理・病理・修復過程の基礎的原理を学ぶ ②関節可動域訓練・筋力増強法・基本動作訓練等の具体的方法を学ぶ				
到達目標	この講義では、基本的な主義について、その理論が理解でき、実際に手技が実行できるようになることを目標とする。成果としては、ここの運動障害について説明ができその障害の対しての評価・治療方法について考える事ができる。				

授業計画

No	授 業 内 容	
1	運動療法歴史・概念・定義	4 時間
2	運動療法基礎 結合組織・関節の構造と機能	4 時間
3	骨格筋の構造と機能について・筋線維の種類と特性	4 時間
4	組織の修復課程・関節・筋組織・軟骨の修復について	2 時間
5	エンドフィール(実技)	2 時間
6	強直・拘縮について	2 時間
7	浮腫・痛みについて	2 時間
8	運動療法器械の基本的な考え方について	2 時間
9	基本的運動(他動運動・自動運動)	4 時間
10	筋収縮・筋弛緩による分類	4 時間
11		
12		
13		
14		
15		
テキスト 参考書等	運動療法 I 神陵文庫 河元岩男	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験	

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	運動療法学Ⅱ			時間数	60
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2	単 位 数	2
担当講師	速見 弥央	取得資格	認定理学療法士、理学療法学修士		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	17
授業内容	理学療法士が関わる骨・関節系を中心とした疾患の特徴について学び、必要な理学療法評価及び治療と理論的背景について学ぶ。運動療法の基本的な治療手技が行えることを目標とする。				
到達目標	1. 基本的な運動療法の手技と理論的背景について理解する。 2. 運動療法の適応とリスク管理について理解する。 3. 運動療法の進め方について学び、実践できる。				

授業計画

No	授 業 内 容
1	骨折・脱臼の運動療法：骨折の基礎知識（分類、症状、合併症、診断、骨癒合の過程、治療の原則）、運動療法（ROM運動、筋力増強運動、荷重練習、ポジショニング）：8時間
2	膝靱帯・半月板損傷の運動療法：8時間
3	関節リウマチの運動療法：4時間
4	有痛性疾患の理学療法（腰痛症、肩関節周囲炎、胸郭出口症候群）：8時間
5	変形性膝関節症の運動療法（保存療法、人工膝関節置換術後の理学療法）：8時間
6	変形性股関節症の運動療法（保存療法、人工股関節置換術後の理学療法）：8時間
7	脊椎疾患の理学療法（腰部脊柱管狭窄症、脊髄損傷）：8時間
8	側弯症の理学療法：8時間
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

テキスト 参考書等	吉尾雅春；骨関節理学療法学,医学書院
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	神経理学療法学			時 間 数	60
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2	単 位 数	2
担当講師	速見 弥央	取得資格	認定理学療法士・理学療法学修士		
		実務経験	有	経験年数	17
授業内容	・ 脳血管疾患の病態と高次脳機能障害 ・ 脳血管疾患に対する理学療法 ・ 脳性麻痺に対する理学療法				
到達目標	・ 脳血管疾患の理学療法の流れが理解できる。 ・ 脳機能と運動麻痺、高次脳機能障害などの発生机序が理解できる。 ・ 脳性麻痺の理学療法の流れが理解できる。				

授業計画

No	授 業 内 容
1	脳の解剖学と生理学(大脳:4時間)
2	脳の解剖学と生理学(大脳基底核:4時間)
3	脳の解剖学と生理学(小脳:4時間)
4	脳の解剖学と生理学(脳幹:4時間)
5	脳の解剖学と生理学(脊髄と末梢神経:4時間)
6	脳血管疾患の理学療法の流れ(急性期から慢性期まで6時間)
7	脳血管疾患の理学療法の考え方(4時間)
8	運動麻痺の評価(病態4時間、ブルンストロームステージ4時間)
9	感覚麻痺の評価(病態4時間、感覚検査4時間)
10	小脳障害の評価(病態4時間、失調評価4時間)
11	運動麻痺の理学療法(基礎2時間、実技4時間)
12	感覚麻痺の理学療法(基礎2時間、実技4時間)
13	小脳障害の理学療法(基礎2時間、実技4時間)
14	高次脳機能障害の評価と生活改善(基礎8時間、実技4時間)
15	脳性麻痺の理学療法の流れ(6時間)

テキスト 参考書等	奈良勲:標準理学療法学,医学書院 松澤正:理学療法評価学,金原出版 前田眞治:脳画像,医学書院
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	実技試験(20点) 本試験(80点)

シラバス（前期・後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	運動器理学療法学			時間数	90
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2 年	単 位 数	3
担当講師	本田隆広	取得資格	理学療法士		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	20 年
授業内容	①一般的整形外科疾患の基礎 ②疾患による身体影響への理解 ③ケース別の理学療法実施へのリスク管理				
到達目標	①整形外科疾患の病態説明ができるようになる。 ②疾患により、日常生活動作に及ぼす影響を理解する。 ③損傷部位、受傷後の影響を考慮したうえで理学療法プログラムが作成できる。				

授業計画

No	授 業 内 容
1	下肢各部位の解剖学、運動学の知識(6 時間)
2	下肢各部位の整形外科疾患の理解(6 時間)
3	下肢各部位の整形外科疾患の理学療法プログラムの理解(4 時間)
4	下肢各部位の整形外科疾患の理学療法の実施(20 時間)
5	上肢各部位の解剖学、運動学の知識(6 時間)
6	上肢各部位の整形外科疾患の理解(6 時間)
7	上肢各部位の整形外科疾患の理学療法プログラムの理解(4 時間)
8	上肢各部位の整形外科疾患の理学療法の実施(10 時間)
9	体幹各部位の解剖学、運動学の知識(6 時間)
10	体幹各部位の整形外科疾患の理解(6 時間)
11	体幹各部位の整形外科疾患の理学療法プログラムの理解(6 時間)
12	体幹各部位の整形外科疾患の理学療法の実施(10 時間)
13	
14	
15	

テキスト 参考書等	標準理学療法学/骨関節理学療法学(医学書院) 病気がみえる vol.11 運動器・整形外科(メディック メディア)
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	講義出席 定期試験(前期、後期)

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	内部障害理学療法学			時 間 数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	速見 弥央	取得資格	認定理学療法士、理学療法学修士		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	17
授業内容	糖尿病とその合併症における、運動処方の実際について理解する。				
到達目標	1. 内分泌のしくみ、糖尿病と合併症の病態について理解する。 2. 運動療法の適応と運動強度の設定、リスク管理について理解する。 3. 運動療法の進め方（生体反応モニタリング、効果的な運動療法の指導等）について実践できる。				

授業計画

No	授 業 内 容
1	糖尿病総論（糖尿病の疫学と理学療法の関わり）
2	内分泌について（自律神経、ホルモン）
3	血糖値について（血糖変動メカニズム、Ⅰ型・Ⅱ型糖尿病の違い、血糖値と合併症）
4	糖尿病の治療法（三大療法－食事療法・運動療法・薬物療法、栄養とエネルギー代謝、薬物の作用と副作用）
5	糖尿病の運動療法（糖尿病に対する運動の原則、運動の適応と禁忌、運動強度、リスク管理）
6	糖尿病の合併症に対する運動の適応と運動強度について
7	運動処方の実際（有酸素運動とレジスタンス運動、生体反応モニタリング）
8	運動処方の実際（ケーススタディ）
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

テキスト 参考書等	高橋哲也：ビジュアルレクチャー内部障害理学療法学、医歯薬出版株式会社 医療情報科学研究所：病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌、第4版、メディックメディア
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験 実技試験

シラバス（前期・後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	装具学			時 間 数	60
学 科	理学療法士養成学科	学 年	2	単 位 数	1
担当講師	柏木俊彦	取得資格	理学療法士		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	20
授業内容	① 装具の一般原理について学ぶ ② 具の構造・適応・長所・短所について説明できる ③ 装具を処方できる				
到達目標	疾患や障害に適した装具選択、また装具の適合についてチェックアウト方法を理解し 下肢装具制作のための採型手順を学ぶ。 障害に適した選択ができるようになり、種類・目的・適応・使用方法を把握する。				

授業計画

No	授 業 内 容	
1	装具の目的・機能・分類・3点固定の原理	4 時間
2	下肢装具の部品とその機能	4 時間
3	短下肢装具（特徴・対象疾患） 金属支柱付・プラスチックAFO	4 時間
4	短下肢装具（構造・機能・種類） クレンザック・Wクレンザック・ストラップ	4 時間
5	短下肢装具のチェックアウト	4 時間
6	長下肢装具（特徴・対象疾患）	4 時間
7	長下肢装具（継手の種類と疾患）	4 時間
8	免荷装具（坐骨支持・PTB）	4 時間
9	靴型装具（補正とその目的） メタタルザルバー・トーマスヒールなど	4 時間
10	体幹装具（腰仙椎装具・側彎症装具）	4 時間
11	頸椎装具（フィラデルフィアカラー・ソーミーブレース）	4 時間
12	対麻痺・小児の装具について（リーメンビューゲル・デニスブラウンなど）	4 時間
13	上肢装具について	4 時間
14	脳卒中方麻痺の装具について	4 時間
15	まとめ	4 時間
テキスト 参考書等	装具学 中山書店 石川 朗	
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験	

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	地域理学療法学			時 間 数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1	単 位 数	1
担当講師	速見 弥央	取得資格	認定理学療法士、理学療法学修士		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	17
授業内容	理学療法士が関わる地域における社会資源（専門職や機関・組織、関連法規）とその活用について理解を深める。また、高齢者に焦点をあて、高齢者の健康状態の把握やリスク管理の方法、介護予防の実際について学ぶ。				
到達目標	1. 地域理学療法の定義とその対象について理解する。 2. 関連法規、とくに介護保険におけるサービスについて理解する 3. 介護予防・健康増進について、実践を通して理学療法士の関りを理解する。				

授業計画

No	授 業 内 容
1	地域リハビリテーションの概念
2	地域理学療法の対象および関連制度（介護保険制度、障害者総合支援法、地域包括ケアシステム）
3	介護保険制度下での理学療法
4	介護予防と健康増進
5	高齢者の健康状態：認知症、摂食・嚥下、サルコペニア、骨盤底機能、運動器症候群
6	健康状態の評価とリスク管理（問診、バイタルサイン、起立性低血圧、肺炎、脱水、深部静脈血栓症）
7	対人援助技術
8	介護予防の実際（校外講義）
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

テキスト 参考書等	浅川育世：ビジュアルレクチャー地域理学療法学．医歯薬出版株式会社 細田多穂：地域リハビリテーション学テキスト．南江堂
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	実技試験 30 点 筆記試験 70 点

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	地域リハビリテーション			時 間 数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	3	単 位 数	1
担当講師	平島 陽子	取得資格	理学療法士		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	16年
授業内容	地域リハビリテーションの範囲、在宅での生活とリハビリテーションの関わりを教授する。				
到達目標	地域とは何か。また地域で展開されるリハビリテーションについて学ぶ。 また地域支援事業や介護予納、地域ケア会議など地域包括ケアシステムを知る。				

授業計画

No	授 業 内 容
1	地域とは何か(2 時間)
2	地域リハビリテーションの歴史(2 時間)
3	リハビリテーション専門職と地域の関わり(2 時間)
4	障害者をとりまく環境(2 時間)
5	介護保険(2 時間)
6	福祉制度(2 時間)
7	地域で展開される疾患別理学療法の関わり(中枢疾患)(2 時間)
8	地域で展開される疾患別理学療法の関わり(運動器疾患)(2 時間)
9	地域で展開される疾患別理学療法の関わり(内部障害疾患)(2 時間)
10	地域で展開される疾患別理学療法の関わり(小児疾患)(2 時間)
11	地域で展開される疾患別理学療法の関わり(特定疾患)(2 時間)
12	訪問看護との連携(2 時間)
13	リハビリテーション専門職の地域活動(2 時間)
14	高齢者保健福祉政策(2 時間)
15	生活環境について(2 時間)

テキスト 参考書等	学生のためのリハビリテーション医学概論(医歯薬出版株式会社) 理学療法概論テキスト(南江堂)
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	テスト

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	生活環境論			時間数	30
学 科	理学療法士養成学科	学 年	1 年	単 位 数	1
担当講師	平島 陽子	取得資格	理学療法士		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	16 年
授業内容	理学療法士として地域で生活される障害者の全体像を理解し、またその住居や公共交通機関などの環境面を理解する。				
到達目標	1. 理学療法と生活環境との関係性を理解する。 2. 生活環境としての住宅と住宅環境について理解する。 3. 地域環境の実際を理解する。				

授業計画

No	授 業 内 容
1	生活環境論の概念
2	生活環境の評価
3	生活環境と法的諸制度
4	生活環境としての住宅と住宅改修
5	生活を支える福祉・リハビリテーション関連用具
6	地域環境と公共交通
7	高齢者の在宅支援サービス
8	高齢者の転倒予防と環境調整
9	ケーススタディ
10	まとめ
11	
12	
13	
14	
15	

テキスト 参考書等	標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学：医学書院 (編集 鶴見隆正 隆島研吾)
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	定期試験